

峡南地域在宅療養者支援のための 多職種連絡会議

～平成26年度から平成29年度のまとめ～

峡南保健福祉事務所

峡南地域在宅療養者支援のための多職種連絡会議実施要領

1. 目的

在宅療養を希望する者が、住み慣れた生活の場において必要な医療・保健・介護サービスが受けられるように、医療・保健・福祉従事者が協力しサポートしていく体制の構築を図ることを目的とし、峡南地域保健医療推進委員会の専門委員会として、在宅医療と介護の連携推進等について協議を行う場として、峡南地域在宅療養者支援のための多職種連絡会議(以下「連絡会議」という。)を設置する。

2. 実施主体

峡南保健福祉事務所

3. 構成員

医師、歯科医師、薬剤師、看護師、訪問看護ステーション職員、地域包括支援センター職員、介護事業所職員、市町村行政職員、保健所長等

4. 役員等

連絡会議の役員として、会長1名、副会長2名を置く。

- 1) 会長は、連絡会議において選出し、承認を得るものとする。
- 2) 会長は、連絡会議を代表し、会務を総理する。
- 3) 副会長は、会長が指名することとし、会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代行する。
- 4) 委員の任期は2年とし、補欠の委員の任期は前任者の残任期間とする。
- 5) 委員は再任を妨げない。

5. 会議

会議は、会長が招集し、会議には議長1名を置き、会長がこれにあたる。

6. 作業部会

連絡会議の所掌事務を補助するため、必要に応じて作業部会を設置する。

7. 協議事項

- (1) 在宅医療と介護の連携推進のための多職種連携
- (2) 在宅医療を推進するための体制整備
- (3) 在宅医療を浸透させるための普及啓発
- (4) 在宅医療を担う人材の育成
- (5) 在宅連携支援プログラム(在宅医療と介護の連携手順)の検討
- (6) その他

目的の達成に必要な事項

8. 事務局

連絡会議は事務局を峡南保健福祉事務所におく。

9. その他

この要領に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項を行う。

附 則

- 1 この要領は、平成26年6月26日から施行する。
- 2 この要領は、平成28年6月21日から施行する。

在宅療養者支援のための多職種連絡会議（平成29年度）構成員

	分野	所 属	職 種	氏 名	所属・役職名等
1	行政機関	市川三郷町	課長	内藤 勝	福祉支援課
2		市川三郷町	課長	渡辺 まゆみ	いきいき健康課
3		早川町	課長	深澤 幸枝	福祉保健課
4		身延町	課長	穂坂 桂吾	福祉保健課
5		南部町	課長	遠藤 良彦	福祉保健課
6		富士川町	課長	佐藤 洋子	福祉保健課
7		峡南保健所	医師	津金 永二	峡南保健福祉事務所
8	地区医師	西八代郡医師会	医師	立川 博邦	立川医院・院長
9		南巨摩郡医師会	医師	窪田 良彦	くぼた内科胃腸科医院・院長
10			医師	飯野 哲	富河医院・院長
11	病院	峡南医療センター市川三郷病院	医師	岩瀬 英一	峡南医療センター・市川三郷病院
12		峡南医療センター富士川病院	医師	小林 正史	峡南医療センター・富士川病院長
13		組合立飯富病院	医師	朝比奈 利明	組合立飯富病院・院長
14		身延山病院	医師	萩原 淳	身延山病院
15		峡南病院	医師	平井出 正紀	峡南病院
16		しもべ病院	医師	腰塚 浩三	しもべ病院・院長
17	関係団体・機関	峡南地区歯科医師会	歯科医	佐野 猛	さの歯科医院・院長
18		山梨県峡南薬剤師会	薬剤師	志村 貴美子	志村衛生堂薬局
19		山梨県看護協会峡南地区支部	看護師	有泉 純子	組合立飯富病院看護部長
20		峡南在宅医療支援センター	医師	芦澤 敏	峡南在宅医療支援センター・センター長
21		地域包括支援センター（北部）	保健師	小河内 菜美	富士川町地域包括支援センター
22		地域包括支援センター（中南部）	保健師	藤田 智恵美	南部町地域包括支援センター
23		山梨県介護支援専門員協会峡南支部	介護支援専門員	宮崎 昌美	居宅介護支援事業所 さい
24		山梨県医療社会事業協会	社会福祉士	保坂 英臣	富士川病院
25		山梨県栄養士会峡南支部	管理栄養士	柿島 穂津美	支部長（しもべ荘）
26		山梨県介護福祉士会峡南ブロック	介護福祉士	笠井 泰信	身延町役場
27		管内保健師代表	保健師	増原 美穂子	身延町保健師
28		訪問看護ステーション	看護師	石井 啓子	ますほ訪問看護ステーション
29		峡南地区認知症家族会		磯野 幸子	会長
30	有識者		医師	市川 万邦	南部診療所・所長
31			医師	西尾 徹	市川メディカルクリニック・院長

峡南地域在宅療養者支援のための多職種連絡会議

「峡南地域で在宅療養を安心・安全に送るための多職種連携の心がけ」
についてディスカッションしている様子

平成30年2月15日



平成26年度から平成29年度に開催した多職種連絡会議の状況

平成26年度	平成27年度	H28年度	H29年度
<p>目的 在宅療養を希望する者が、住み慣れた生活の場において必要な医療・保健・介護サービスが受けられるように、医療・保健・福祉従事者が協力しサポートしていく体制の構築を図ることを目的とし、峡南地域保健医療推進委員会の専門委員会として、在宅医療と介護の連携推進等について協議を行う場として、峡南地域在宅療養者支援のための多職種連絡会議(以下「連絡会議」という。)を設置する。</p>			
<p>【第1回】 実施日:平成26年7月30日(水) 午後7時～8時30分 場 所:南巨摩合同庁舎3階会議室 参加者:27名 内 容: ① 峡南地域で在宅療養者を支援のための課題の共有 ② 第1回人材育成事業について ③ 普及啓発事業について ④ その他</p>	<p>【第1回】 日 時:平成27年7月21日(火) 午後7時～8時30分 場 所:南巨摩合同庁舎3階大会議室 出席者:委員23名 内 容: (1)平成26年度事業報告・平成27年度事業計画について (2)医療と介護の連携について ①医療と介護の連携に係る情報提供 ・在宅患者情報共有システム(KOMET)について ・在宅医療チーム形成促進事業について ②グループディスカッション ・「機能を活かす」の視点で医療と介護の連携推進について ③全体発表・意見交換</p>	<p>【第1回】 日 時:平成28年7月21日(木) 午後7時～8時30分 場 所:南巨摩合同庁舎3階大会議室 出席者:委員25名 内 容: (1)平成27年度事業報告・平成28年度事業計画について (2)医療と介護の連携に係る情報提供 ・峡南在宅医療支援センターにおける取り組みについて ・峡南在宅医療支援センター長 芦澤敏医師 (3)在宅療養を支える多職種連携の現状と今後について ①グループディスカッション ・在宅療養を支える多職種連携の現状について－在宅移行期－ ②全体発表・意見交換</p>	<p>【第1回】 日 時:平成29年7月12日(水) 午後7時～8時30分 場 所:南巨摩合同庁舎3階大会議室 出席者:委員23名 内 容: (1)平成29年度事業計画について (2)医療と介護の連携に係る情報提供 ・峡南保健所管内の地域支援事業の進捗状況について ・峡南地域在宅療養者支援のための多職種医連絡会議3年間の取り組みから考える支援の方向性について ①グループディスカッション ②全体発表・意見交換</p>
<p>【第2回】 実施日:平成26年11月27日(木) 午後7時～8時30分 場 所:南巨摩合同庁舎3階会議室 参加者:24名 内 容: ① 在宅医療・ケアを考える研修会 ② 在宅医療・介護の手引き ③ 峡南地域在宅患者情報共有システム ④ 各委員からの情報提供</p>	<p>【第2回】 日 時:平成27年12月8日(火) 午後7時～8時30分 場 所:南巨摩合同庁舎3階大会議室 出席者:委員21名 内 容: (1)病院機能と地域の機能で在宅生活をどう支えるか ①地域での生活を支える峡南地域での取組紹介 ・地域包括ケア病床に関する情報提供 ・市川三郷町あったらいいなを実現するための仕組みづくり研究会の取組 ②グループディスカッション ・峡南地域でその人らしく生活を継続していくために、どのように生活を支えていくか ③全体発表・意見交換 (2)多職種人材育成事業、在宅医療普及啓発事業の報告</p>	<p>【第2回】 日 時:平成28年12月14日(水) 午後7時～8時30分 場 所:南巨摩合同庁舎3階大会議室 出席者:委員20名 内 容: (1)峡南地域在宅医療多職種人材育成事業の報告 (2)地域での看取りに向けた在宅医療について ①情報提供 ・在宅医療の現状と課題 ・南部診療所 所長 市川万邦 医師 ②グループディスカッション ・在宅療養を支える多職種連携の現状について－看取りに向けて－ ③全体発表・意見交換</p>	<p>【第2回】 日 時:平成29年12月18日(月) 午後7時～8時30分 場 所:南巨摩合同庁舎3階大会議室 出席者:委員20名 内 容: (1)事業報告 ①多職種連絡会議委員を対象に実施した「顔の見える連携」に関する調査結果の報告 ②在宅療養者支援のための人材育成研修会報告 (2)研修会 ①症例紹介 市川メディカルクリニック院長 西尾徹医師 ②グループディスカッション ③全体発表、意見交換</p>
<p>【第3回】 実施日:平成27年2月26日(木) 午後7時～8時30分 場 所:南巨摩合同庁舎3階会議室 参加者:23名 内 容: ① 第2回の会議の中で出された課題整理と来年度の方向性 ② 普及啓発事業(つどい)の報告、課題、今後の方向性 ③ 第2回人材育成事業の報告、課題、今後の取り組みの方向性 ④ 在宅多職種連携に係る情報共有 ⑤ その他</p>	<p>【第3回】 日 時:平成28年2月29日(月) 午後7時～8時30分 場 所:南巨摩合同庁舎3階大会議室 出席者:委員23名 内 容: (1)各町における地域支援事業等の取組について ①地域包括ケアシステムの推進に係る動向 ②各町からの取組と今後の方向性の報告 (2)全体意見交換 ・2年間を振り返り、会議への感想や今後の会議への期待について (3)在宅医療普及啓発事業の報告</p>	<p>【第3回】 日 時:平成29年2月22日(水) 午後7時～8時30分 場 所:南巨摩合同庁舎3階大会議室 出席者:委員21名 内 容: (1)地域での看取りに向けた在宅医療について ①情報提供 ・対象者の思いに寄り添い支える－本人・家族の意思決定支援－ ますほ訪問看護ステーション 所長 石井 啓子 看護師 ②グループディスカッション ・在宅療養を支える多職種連携の現状について－まとめ－ ③全体発表・意見交換 (2)来年度の取り組みの方向性の確認</p>	<p>【第3回】 日 時:平成30年2月15日(木) 午後7時～8時30分 場 所:南巨摩合同庁舎3階大会議室 出席者:委員21名 内 容: (1)峡南地域で在宅療養を安心・安全におくるために 1)安心・安全に療養生活を送るための訪問看護紹介DVD視聴 (2)グループディスカッション 1)在宅療養を支える多職種連携の現状と今後について －峡南地域で療養生活を安心・安全に送るための多職種連携の心がけ－ 2)全体発表、意見交換 意見集約 3)入・退院時における医療・介護連携に関する取り組みについて (3)峡南地域在宅療養者支援のための多職種連絡会議まとめ</p>

峡南地域在宅療養者支援のための多職種連絡会議 □発言・意見の整理□


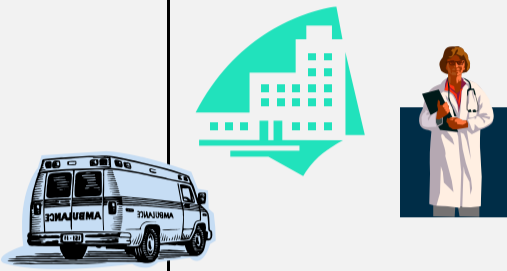
平成26, 27, 28年度

10の課題	課題	解決策・取り組み
1 峡南地域のように	人口減少、高齢者、要介護者、要介護者、認知症増、核家族、限界集落	
2 ニーズ	国で在宅医療の推進を謳っているが、峡南地域では在宅医療が望まれているのか	・支援者は事例検討会などで対象者の希望を把握するスキルを上げる。 ・関わっている人たちがそれぞれに得た情報を関係者で共有する。 ・本当に在宅を望んでいるのか、望めないのはどういった原因があるのか探る。 ・「〇〇が足りないから在宅で過ごせない」というものが出てきたときに町として取り組み検討につながる。 ・町では、第6期計画を立てるため、調査。→「自宅で」58.9%～73.5%(H26.3.各町調査) ……情報更新
	対象者が本当に在宅を望んでいるのか	住民のニーズを拾う、本音を聞く
	歯科往診の潜在的ニーズがもっとあるのでは	かかりつけ歯科医の活用
	早期退院で、医療依存度が高い人が退院してくる	すぐに対応できる体制づくり
3 予防	健康寿命の延伸、介護状態になることを予防すること	健康づくり、集落ごとの健康相談、いきいきサロン、健康教育、人が集う場
	国保医療費が高い	町の庁内に健康づくりの検討会を立ち上げ、ライフステージごとに検討
	介護保険をできるだけつかわず健康で過ごせること	介護予防事業推進を図る
4 療養する人の生活を支える	高齢になっても安心してすごせること	高齢者を支える仕組みづくり
	可能な限り在宅で過ごせる 在宅で過ごすこと自体が難しくなっていて家にいられない療養が必要になると町外に出る	・在宅で過ごせる仕組みづくり ・家にいられる様々な体制の構築 ・隣近所の見守りや力を借りる→それでも症状が進むと(介護度が高くなると)在宅は困難 ・新しいコミュニティをつくる(隣の家の人に助けを呼べるくらいに集まって住まう) ・できることは心理的な支え、地域の人が町の活動として声かけをしていくことが大事。 ・新しいタイプの住宅
	地元で最期を迎えたい人を支える	介護度なしでも老人のアパート・集合住宅。土地はあるので住宅のことまで考えられるとよい
	食べるということが大切	生活基盤である食事の提供をする。
	医師の支えも必要だが、生活を支えることが大切	キーパーソンが必要・介護者はどうしても必要か。
	家族も支える	・介護者の精神的なバックアップ ・急変すると家族も辛くなり病院へとなる。事前に急変時の対応を検討し不安を取り除くことが必要。
	地域外の大病院から田舎の在宅の状況を知らないで情報が少ないまま帰ってくる	介護度なしでも老人のアパート・集合住宅。土地はあるので住宅のことまで考えられるとよい
5 医療	病院での在宅医療の推進	地域包括ケア病床の活用
	在宅医療のニーズがあるが、推進したいと思っても、受けたいと思ってもできない現状	町としては地元の医師の協力いただく
	病院では、往診が難しい	医療連携、訪問看護ステーション、医療相談室、包括支援センターとの連携。 医療連携室にソーシャルワーカー配置 近医の先生に御協力いただいている 峡南独自の、往診するとちょっとお金が高くなるシステムづくりはどうか
	地域外の大病院から田舎の在宅の状況を知らないで情報が少ないまま帰ってくる	
6 困難ケース	困難ケースのための連携	・町では関係者に集まってもらい、会議をしている ・多職種連絡会議・人材育成事業で顔が見える関係をつくるのが非常に必要 ・みんなで話し合うことで糸口が見つかる。小規模で場所と日だけ設定して頻繁に行うことがよい。
7 人材の育成・確保	病院勤務医師の不足	
	介護職の離職が非常に多い	多職種の事例検討会を実施(1/月)することで離職予防
	看護師含む多職種の人材の育成確保	事例検討会の継続によって多職種関係者のモチベーションを上げる
	看護師の不足。(訪問看護ステーション、介護現場)	所属機関が同じであれば、病院・訪問部門など看護師が交代することで補う。
	医師とのコミュニケーションの力をつけること	介護支援専門員協会峡南支部ではケアマネ学習会(1/月)の開催
8 周知の不足	訪問看護が周知されていない	訪問看護ステーションでは医師会の先生方への働きかけ、民生委員さんにも働きかけている
	認知症おかえりマークを命を守るためにみんなが知っている必要がある	各町、認知症家族会では認知症サポーター養成を行っている
	ケアマネを関係者に理解していただくこと	ケアマネの仕事を知
	資源を知らないためにうまく在宅療養ができない	
	(療養が必要になっても)自宅で安心して過ごせること	・支援者の経験が大切 ・訪問看護と介護サービスで自宅で安心して過ごせることをアピール ・地域住民の方への在宅医療の講演をもっと多くする ・在宅医療がどのようになされていくのか住民にしっかり伝えたと、在宅を希望するのか明確にできるように私たち専門職が住民に周知していく。 ・住民の方は病院は魔法の箱でそこに入るとすぐ良くなって帰ってくると思っている。 元通りにならないから在宅は無理と思ってしまうので現実を見てもらうことも必要では。 ・在宅療養に関して地域への啓発が必要。住民が理解することで在宅という選択肢が増える。
	意思の確認	・状態が悪くなると家族が耐えられなくなる。本人の意思を文書に残すことが大切。 ・元氣なうちに最期をどこで迎えるか話し合い、書き留めておくことが必要。
家族への周知	・ターミナル期の状態の変化について情報を伝えておくことが必要 ・在宅が継続できなくなっても悪いことではないことを知ってもらう	
9 機能を活かす	リハビリの広域支援センターでの峡南地域にあった活動の仕方	リハビリ広域支援センターはネットワークづくりをして地域に貢献する
	薬局内に設置したクリーンベンチを活用して在宅医療に活かす	今後、シュミレーションをして安心して活用できるように準備していく
	峡南在宅医療支援センターと町の包括支援センターの協働体制の構築	うまく機能するよう検討・協議
	対象者を中心に考えた施設づくり、地域の人々が来やすい施設づくり、在宅療養者がよりよい生活ができるための施設づくり	在宅を支える施設づくり
	老老介護、認知症高齢者が多いが受け皿に限りがある	町では多職種連携会議で情報提供していただきながら今後のシナリオをつくっていく
	地域に介護サービス事業者少ない、新規サービスを増やすこと困難	
	薬剤師の医師との顔が見える関係づくり必要	多職種連絡会議への参加
	峡南地域在宅患者情報共有システム(コメント)の活用	先行モデル事業→検証、改善。
	多職種連絡会議の活用	・委員の皆さんの考えや思いが出せるよう、全員が発言できる工夫をする。 ・早く結果を出すことは難しいが、委員が基本的なことをこの会議で勉強していく。
10 つなぎ	病院の中と外をつなぐ、在宅患者さんが不安にならないように	病院地域連携室では地域の関係者と連携を図る
	栄養士は病院・施設に勤務している人が多く在宅に携わりにくい、窓口やコーディネーターが必要	・「やまなし栄養ケア・ステーション」に相談する ・栄養サマリーが有効
	在宅で暮らしたい人(療養したい)をみんなで支えること	・包括ではインターネットで県外に住むご家族と連絡をとってご本人の在宅希望を支援している事例あり ・多職種のコーディネーターとしてケアマネへの期待が大きい ・医師が複数で診ることで互いに安心につながる
	精神科とのつながり	需要が多く対策が必要
システムづくり	・多職種がチームで関われるシステムづくりが必要 ・地域力を高め、お互いに支え合うシステムづくりが求められる ・安心した在宅取りのための事前のシステム(検死の問題など)の整備	

* 健康状態のステージごとに多職種が連携して取り組むポイント

峡南地域在宅療養者支援のための多職種連絡会議 発言・意見の整理 H26. 27, 28

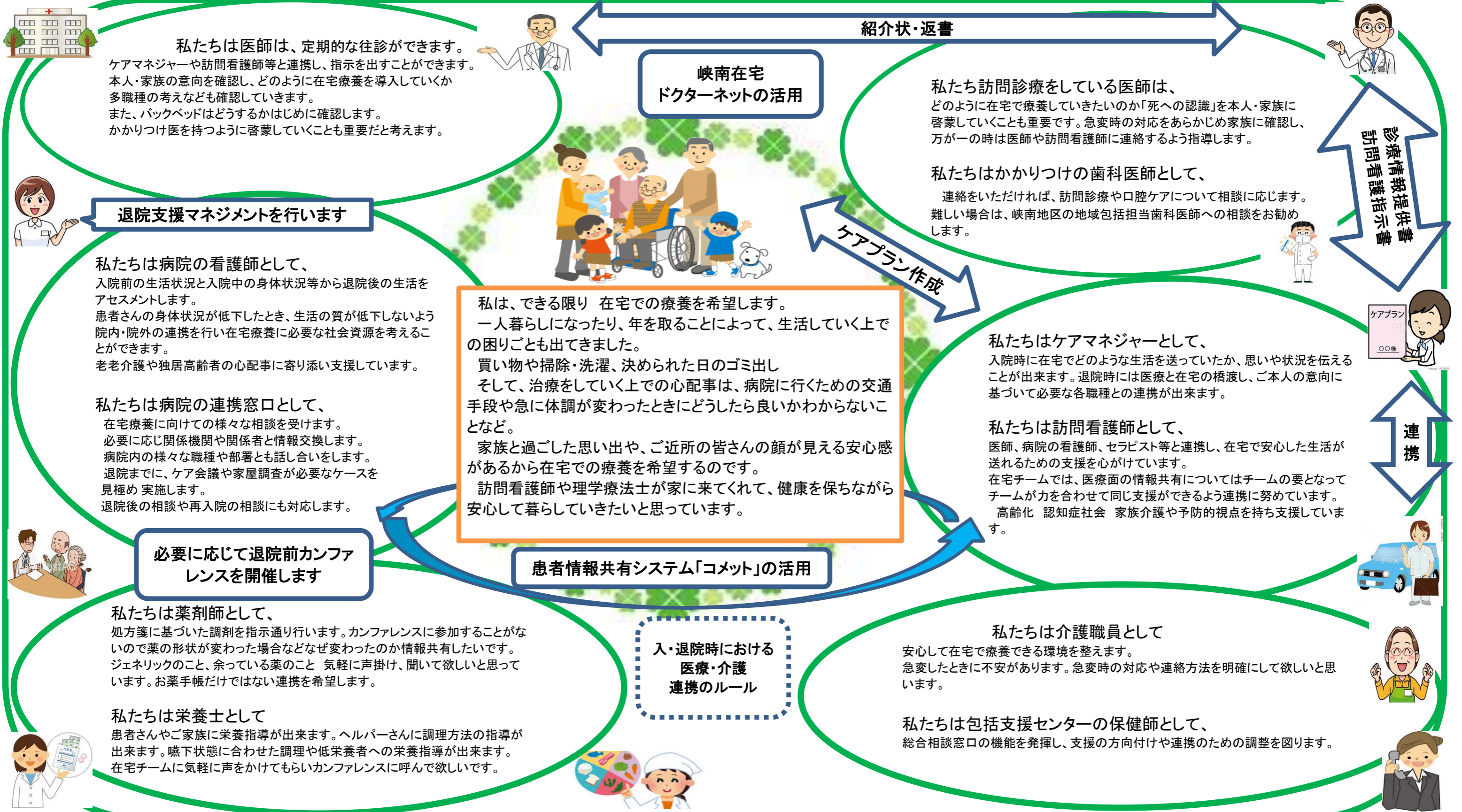
峡南地域在宅療養者支援のキャッチフレーズ: 療養者が望む生活を送るために 私たち多職種がつながる サービスをつなげる

	健康なとき	通院	入院	在宅移行	看取り
峡南地域の状況	<p>ADLの低下</p> <p>峡南地域の特徴: 人口規模が小さく高齢化率が高い※ ※在宅療養者及び療養病床入院患者等に係る実態調査報告書 H29.3引用</p> 		<p>早く退院したいけどだれに相談したら良いの</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護保険申請 医療保険での訪問看護導入 	<p>往診医や訪問看護師に療養の相談にのってほしい</p> <p>峡南地域の特徴: 小規模な訪問看護ステーションが多い</p> <p>峡南地域の特徴: 県平均に比べ往診医の割合は多い※</p>	<p>寝たきりになっても家にいたいけど...</p> <ul style="list-style-type: none"> 人工呼吸器 中心静脈栄養 気管カニューレ <p>管理が難しい</p> <p>峡南地域の特徴: 往診医が、看取りに対応している医療機関は約8割※</p>
多職種連絡会議で出された課題	<ol style="list-style-type: none"> 在宅医療を望める環境 高齢になっても安心して過ごせる 薬剤師と医師との顔の見える関係が必要 在宅医療は望まれているのか? 認知症お帰りマークを知っている必要がある。 訪問看護が周知されていない 峡南在宅医療支援センターの活動体制構築システム(しくみ)づくり 	<ol style="list-style-type: none"> リハビリ広域支援センターでの活動の仕方 精神科とのつながり 	<ol style="list-style-type: none"> 在宅医療の推進 病院では往診が難しい 勤務医不足 精神科とのつながり 困難ケースのための連携 	<ol style="list-style-type: none"> 老々介護、認知症高齢者が多く受血の限界 可能な限り在宅で過ごす 療養が必要になると町外に出る 食べることが大切 安心して過ごせること 歯科往診の潜在ニーズはもっとあるのでは 療養者と家族の生活を支える 栄養士は病院・施設に勤務している人が多く、在宅に携わりにくい。 窓口やコーディネーターが必要 介護サービス事業者少ない新規サービス増やすこと困難 	<ol style="list-style-type: none"> ターミナル期の状態変化について情報を伝えておく必要がある。 地元で最期を迎えたい人を支える 地元の医師の協力
多職種連絡会議の取組目標	<ol style="list-style-type: none"> 高齢になっても安心して過ごせる在宅医療が望める環境作り 	<ol style="list-style-type: none"> 顔の見える関係づくりと多職種連携 つなぎ役になれる力量形成 	<ol style="list-style-type: none"> 病院→診療所 (医→往診医、看→訪問) へと切目ない支援体制を速やかに構築 	<ol style="list-style-type: none"> 療養者と家族の生活を支える在宅医療の充実・強化のための具体的な取組の推進 	<ol style="list-style-type: none"> 病状変化に柔軟に対応できる在宅療養支援チームの育成 急変時対応 医療依存度の高い人への対応

本人家族	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の見守りや力を借りた療養 在宅療養について講演会などに参加し、理解を深める 		<ul style="list-style-type: none"> 資源を知らないためにうまく在宅療養ができない 在宅療養を行うにはキーパーソンが必要 	<ul style="list-style-type: none"> 急変時への対応について説明を受けておく 状態が悪くなると家族が耐えられなくなることに関係者に支援してもらう 
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------	--	------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

元気なうちに最期をどこで迎えるか話し合い、書き留めておく(自分の望む生活を送るために～在宅医療・介護の手引～)

医療 医師 歯科医師	<ul style="list-style-type: none"> 多職種連絡会議の活用 支援者として経験を積みあげていく 	<ul style="list-style-type: none"> 精神科への需要が多く対策が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケア病床の活用 すぐに対応できる体制づくり 医師が複数で診ることで互いに安心に繋がる 	<ul style="list-style-type: none"> 往診や訪問診療導入 峡南地域在宅患者情報共有システム(コメント)の活用 かかりつけ歯科医の活用 緊急時に対応できる体制づくり 	<p>ターミナル期の状態変化に合わせた医療提供体制、麻薬の処方、訪問看護師や病院の外来看護師の対応について情報共有しておくこと。緊急時対応について関係者が情報の共有と理解をしておくことが必要</p>
薬局 薬剤師	<p>多職種での事例検討会の開催</p>		<p>医療連携、訪問看護ステーション、医療相談室、包括支援センター等との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> かかりつけ薬局 クリーンベンチを活用して在宅医療に活かす 	
看護 看護師 訪問看護師	<p>訪問看護を開業医、民生委員にPR</p>			<ul style="list-style-type: none"> 訪問看護導入 栄養サマリーが有効 	
医療社会 事業協会 社会福祉士		<ul style="list-style-type: none"> 医療連携室にソーシャルワーカー設置 	<p>医療依存度の高い人の退院調整</p>		
介護支援 専門員協会 介護支援 専門員	<p>ケアマネの仕事を知</p>		<p>多職種のコーディネート役としてケアマネへの期待は大きい</p>	<ul style="list-style-type: none"> 適切なサービス導入により安心して在宅療養が送れる体制づくり 	
介護 福祉士会 介護福祉士				<ul style="list-style-type: none"> 老人のアパート・集合住宅など 食事の提供の工夫 栄養サマリーが有効 訪問介護サービス導入 	
包括支援 センター 保健師	<p>介護予防事業推進を図る高齢者を支える仕組み作り在宅医療の講演会を開催し普及啓発を図る</p>			<ul style="list-style-type: none"> 関係者会議の開催 みんなで話し合うことで糸口が見つかる。 	
行政機関 市川三郷町 早川町 身延町 南町 富士川町 峡南保健福祉事務所	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりの検討会を立ち上げ、ライフステージごとに検討 多職種連絡会議・人材育成事業で顔が見える関係づくり 療養者が在宅で過ごせるための多職種がチームで関われるシステムづくりが必要 在宅医療の講演会の開催 		<p>県外家族と連絡をとって、本人の在宅希望を支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> (社会福祉協議会などと連携し)生活の基盤である食事の提供 	



私たちは医師は、定期的な往診ができます。
 ケアマネジャーや訪問看護師等と連携し、指示を出すことができます。本人・家族の意向を確認し、どのように在宅療養を導入していくか多職種の考えなども確認していきます。また、バックベッドはどうするかはじめに確認します。かかりつけ医を持つように啓蒙していくことも重要だと考えます。

峡南在宅ドクターネットの活用

紹介状・返書

私たち訪問診療をしている医師は、どのように在宅で療養していきたいのか「死への認識」を本人・家族に啓蒙していくことも重要です。急変時の対応をあらかじめ家族に確認し、万が一の時は医師や訪問看護師に連絡するよう指導します。

私たちはかかりつけの歯科医師として、連絡をいただければ、訪問診療や口腔ケアについて相談に応じます。難しい場合は、峡南地区の地域包括担当歯科医師への相談をお勧めします。

診療情報提供書
訪問看護指示書

退院支援マネジメントを行います

私たちは病院の看護師として、入院前の生活状況と入院中の身体状況等から退院後の生活をアセスメントします。患者さんの身体状況が低下したとき、生活の質が低下しないよう院内・院外の連携を行い在宅療養に必要な社会資源を考慮することができます。老老介護や独居高齢者の心配事に寄り添い支援しています。

私は、できる限り 在宅での療養を希望します。一人暮らしになったり、年を取ることによって、生活していく上での困りごとも出てきました。買い物や掃除・洗濯、決められた日のゴミ出しそして、治療をしていく上での心配事は、病院に行くための交通手段や急に体調が変わったときにどうしたら良いかわからないことなど。家族と過ごした思い出や、ご近所の皆さんの顔が見える安心感があるから在宅での療養を希望するのです。訪問看護師や理学療法士が家に来てくれて、健康を保ちながら安心して暮らしていきたいと思っています。

ケアプラン作成

私たちはケアマネジャーとして、入院時に在宅でどのような生活を送っていたか、思いや状況を伝えることが出来ます。退院時には医療と在宅の橋渡し、ご本人の意向に基づいて必要な各職種との連携が出来ます。

私たちは訪問看護師として、医師、病院の看護師、セラピスト等と連携し、在宅で安心した生活が送れるための支援を心がけています。在宅チームでは、医療面の情報共有についてはチームの要となってチームが力を合わせて同じ支援ができるよう連携に努めています。高齢化 認知症社会 家族介護や予防的視点を持ち支援しています。

ケアプラン
○○様

連携

私たちは病院の連携窓口として、在宅療養に向けての様々な相談を受けます。必要に応じ関係機関や関係者と情報交換します。病院内の様々な職種や部署とも話し合いをします。退院までに、ケア会議や家屋調査が必要なケースを見極め実施します。退院後の相談や再入院の相談にも対応します。

必要に応じて退院前カンファレンスを開催します

私たちは薬剤師として、処方箋に基づいた調剤を指示通り行います。カンファレンスに参加することがないので薬の形状が変わった場合などなぜ変わったのか情報共有したいです。ジェネリックのこと、余っている薬のこと 気軽に声掛け、聞いて欲しいと思っています。お薬手帳だけではない連携を希望します。

患者情報共有システム「コメット」の活用

入・退院時における医療・介護連携のルール

私たちは栄養士として患者さんやご家族に栄養指導が出来ます。ヘルパーさんに調理方法の指導が出来ます。嚥下状態に合わせた調理や低栄養者への栄養指導が出来ます。在宅チームに気軽に声をかけてもらいカンファレンスに呼んで欲しいです。

私たちは介護職員として安心して在宅で療養できる環境を整えます。急変したときに不安があります。急変時の対応や連絡方法を明確にして欲しいと思います。

私たちは包括支援センターの保健師として、総合相談窓口の機能を発揮し、支援の方向付けや連携のための調整を図ります。

峡南在宅医療支援センター：
在宅医療・介護の連携が円滑にできるように、峡南5町から調整と推進を委託された機関です。峡南地域の医療・介護の関係者の皆さんと共に『多職種連携』に取り組んでいきます。

行政:市川三郷町・早川町・身延町・南部町・富士川町
必要なサービスや資源、しくみづくりを行い、それらを住民やサービス事業所等に情報提供していきます。

峡南保健福祉事務所：広域的な医療介護連携を推進するための取組等、峡南圏域として連携が必要となる事項について、医療・保健・介護従事者等の多職種連携を支援し各関係機関との調整を図っていきます。